

令和 5 年 6 月 4 日現在

機関番号： 32501
研究種目： 奨励研究
研究期間： 2022～2022
課題番号： 22H04025
研究課題名 内部質保証の有効性に資する為の外部評価の研究

研究代表者

荒木 俊博 (Araki, Toshihiro)

淑徳大学・その他部局等・淑徳大学大学改革室室長代理

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 350,000円

研究成果の概要：本研究は、大学や自治体の外部評価や各評価理論に関する先行研究の分析を行い、外部評価のきっかけや目的、外部評価の概要、外部評価委員、外部評価の活動について半構造化インタビューと全国の全ての大学に対する調査を実施した。結果として外部評価は委員会形式で毎年度実施している大学が多く、大学の教育研究活動について、プロセス・アウトカム・アウトプットに対する評価を実施している。調査結果から、内部質保証に資するための外部評価のあり方としては、既に教育改善などに資していることから、重要なのは評価の質を高めるための工夫であった。

研究成果の学術的意義や社会的意義

大学が自らの質を保証する内部質保証は、実践事例や評価報告書の分析などから研究されている。しかし、大学が独自に実施している外部評価は実態や課題が明らかにされておらず、本研究によるインタビュー調査と全国の大学に対し実施した調査において、外部評価の役割、外部評価委員の構成や委員の役割、課題や解決方法について明らかにしている。これは大学が質保証をどのように実施していくかの研究の一助となるものである。

研究分野： 高等教育

キーワード： 内部質保証 大学評価 外部評価

1. 研究の目的

大学は、教育研究等の質の向上を図り、適切な水準にあることを大学自らの責任で説明し、証明していく継続的な取組である内部質保証を行う事が求められている。また 2018 年度以降の第 3 期認証評価では「内部質保証システムの有効性に着目した評価」が行われており、内部質保証の有効性を示すには、何らかの仕組みで定期的に確認を行う必要がある。この仕組みに関して、大学の公開情報の内部質保証に関する方針を調査すると、外部評価を挙げている大学がいくつか見られる。そこで本研究は内部質保証における外部評価に着目し、大学が独自に行う外部評価の要件・評価手法・成果を実務担当者の視点から調査・分析から内部質保証の有効化に資する外部評価のあり方を明らかにすることにある。

2. 研究成果

本研究は、大学や自治体の外部評価や各評価理論に関する先行研究の分析を行い、外部評価のきっかけや目的、外部評価の概要、外部評価委員、外部評価の活動について 2022 年夏に 4 大学へ半構造化インタビューと 2023 年 2～3 月に全国の全ての大学に対する調査を実施した。

半構造化インタビューからは、外部評価が内部質保証の有効性や客観性を高めるだけでなく、教育等の各種取り組みの向上、地域からの理解と評価の 3 つの機能があることが示唆された。また、外部評価を大学の諸活動の改善に資するためには、委員に対する説明や知識理解のための理解、高等教育関係者の関与などが効果的であるという意見があった。

半構造化インタビューを受けて実施した外部評価に関する全国大学調査からは、258 大学からの回答があり、そのうち外部評価を実施している大学は 131 大学であった。このうち、7 割以上の大学は 2015 年以降から外部評価を実施しており、私立大学は補助金がきっかけで実施した大学も多くあることがわかった。また、外部評価は委員会形式で毎年度実施している大学が多く、大学の教育研究活動について、プロセス・アウトカム・アウトプットに対する評価を実施している。(表 1)

表 1 外部評価の対象

評価	n	%
プロセス	44	33.6
アウトカム	29	22.1
アウトプット	26	19.8
ニーズ	16	12.2
その他	16	12.2
合計	131	100

これらの調査結果から、内部質保証に資するための外部評価のあり方としては、既に教育改善などに資していることから、重要なのは評価の質を高めるための工夫である。例えば、評価の実質化のための外部評価運営と準備が重要であり、評価委員の人選と事前知識や課題の理解が重要かつ不可欠である。また、評価については、何を評価してもらうかといった課題設定や評価項目の粒度、外部評価に提出する自己点検・評価報告書などが求められることが求められる。

本研究では外部評価がどのように実施され、どのように何を評価しているのかを明らかにした。今後の展望として、本調査結果からまだ分析ができていない外部評価委員の属性別の役割や外部評価結果への影響などを検討する必要がある。また外部評価は、内部質保証にステークホルダーが関わっているものであり、今後は学生など別のステークホルダーについても同様に調査検討をしていくことが必要である。

主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計1件（うち査読付論文 0件／うち国際共著 0件／うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 荒木俊博	4. 巻 9
2. 論文標題 内部質保証の有効性に資するための外部評価の要件の検討	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 淑徳大学高等教育研究開発センター年報	6. 最初と最後の頁 95-112
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

〔学会発表〕 計0件

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

内部質保証の有効性に資するための外部評価に関する全国調査調査結果
<https://lookerstudio.google.com/s/l1V0ahdpwBo>

研究組織（研究協力者）

氏名	ローマ字氏名